

ヒバカリの塊 = = = 三州横山話より



ヒバカリは、きれいな赤色をした小蛇で滅多にいない蛇ですが、これに咬まれると、その時刻が朝なれば夕方、夕方なれば朝までしか寿命がないから、それでヒバカリというのだそうですが、咬まれて死んだという話は聞いたことはありません。

私の母方の祖父が子供のとき、八名郡山吉田村字新戸〔現、南設楽郡鳳来町〕の実家の裏の畑で見たと言うのは、ヒバカリが大きな塊りになって、転がっていたそうですが、一つ転がっては、全部の蛇が頭を上げて、あたりを見たと言います。附近からは、どこから来るともなく、ふっとそこいらから、湧いて来るように見えたそうです。家の人たちが全部仕事に出たあとで、隣の子供と見ていて、いつまでも果てしが無いのに、いったん家へは行って、ふたたび出て見たときは、もう一つもいなかったと言います。

ヒバカリに限らず、どんな蛇でも、こうして塊になっているときは、なかに玉を持っていてその玉を人が奪って来ると、金銀が自然に集まって来るなどと言います。またその塊の中へカンザシを入れてやると、その玉をおいて行くとも言います。